

# 読書のまち・かわさき通信 No.67



読書のまちかわさき

読書のまち・かわさき事業推進委員会 会長  
川崎市教育委員会 学校教育部 指導課長

2015. 3. 9 発行

## 大森 望 氏 講演会 「いろいろな本が、できるまで」

川崎市図書ボランティア研修会  
2015年1月20日(火)

が行われました



研修会の当日は、川崎市内だけでなく、市外から参加される方もいらっしゃいました。今年度2回目の研修会は、翻訳家・アンソロジストの大森望さんをお招きして、「いろいろな本が、できるまで」をテーマにお話をいただきました。小学生時代の図書館との関わりから出版社での仕事の内容、現在の出版について等、語っていただきました。講演にあった、近年ネット社会となり、プロが作った本を読む時代から、一般の人が作った物語を読めるようになってきており、自分で参加して作っていただけるものへの関心が高まってきていること、また子どもたちの読む本にもライトノベルやボーカロイド小説などが増えてきていることなどは、これからの出版や読書の変化を予感させる内容でした。出版社と文学賞との関係や、編集者の役割など、普段はあまり聞くことのできないお話もあり、最後は、「形は変わっても本はなくならないし、物語のおもしろさも変わらない。活字の需要は減っていない。小説を読む人たちを増やしていただきたい」という図書ボランティアへのメッセージで締めくくられました。

### みなさまからの声

- 文学、本についてあまり詳しくないので、難しい講演会かと思いましたが、とてもわかりやすく楽しく聞くことができました。本に関わる仕事や現状のお話を伺って、違う角度からまた本を見ることができそうです。
- 今の時代の出版の世界のことは全く理解していなかったので大変興味深いお話でした。
- 直木賞と芥川賞の違い、ライトノベルとネット小説の違いについてのお話が興味深く面白かったです。先生の著書もぜひ拝読したいと思います。
- 将来的に本の出版そのものが無くなることはなさそうであること、優れた作品が自然と残っていくのかなと思いました。

# 第10回 かわさき・ゆめ作文コンクール 表彰式

1月21日（水）に川崎市役所本庁舎において、「かわさき・ゆめ作文コンクール」表彰式が行われました。小学校中学年から262作品、高学年から127作品、中学校から203作品の、計592作品の応募の中から、12作品が入賞しました。どの作品も、自分の住む町の人や良さについて考え、川崎への思いをこめて書かれたものでした。式では、作品の朗読もありました。また、式後は教育長との交流会が設けられ、学校生活の様子などを語り合いました。受賞したみなさんの晴れやかな笑顔が印象に残る表彰式でした。



## 子ども読書カレンダー

2015年版が  
できました

今年も川崎市教育委員会では「読書のまち・かわさき」事業の読書普及広報活動の一つとして「子ども読書カレンダー」を作成しました。かわさき読書週間に向けて応募していただいた読書標語、ポスターの優秀作品の数々が掲載されています。

多くの方々が作品に目をとめていただき、川崎市のみなさまの読書への関心が高まることを願っております。また来年度の作品応募もお待ちしております。

